

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームほほえみ Bユニット	評価実施年月日	平成20年12月15日
評価実施構成員氏名	佐々木 直子 工藤 恵美佳 岡田 牧 井上 尚美 大沼 優子 大石 恭美子 斉藤 勲 佐治 美和子 大嶋 悦子		
記録者氏名	佐々木 直子	記録年月日	平成21年1月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを 支えていくサービスとして、事業所独自の理 念を作り上げている。	地域の方とのつながりを大事にし、その人らしく個々のペースに合わせた生活を支え るための事業所理念を策定している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる。	フロア内にケア理念を掲示し、職員間でケア理念を念頭におきながら、利用者との関 わりを振り返り、ケア内容について考えるようにしている。また、カンファレンスや勉 強会で理念を確認し、共有する機械を設けている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続け ることを大切にした理念を、家族や地域の 人々に理解してもらえるよう取り組んでい る。	来所された方が目につきやすい所に掲示し、ケア理念を理解していただいている。家 族にはケアの考え方を説明する際に理念も含めて説明している。地域の方には、事 業所建設時、理念や役割をを説明したり、運営推進会議や町内会の集まりなどで、 事業所の取り組みと共に伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように努め ている。	近隣の方と挨拶を交わしたり、ホーム施設駐車場で利用者がお茶をしている所に、 近隣の方が参加されるなど利用者の理解を得ながら良い関係が築けている。また、 ホーム行事の参加の声がけを行っている。	○	地域の方との交流を図っているが、まだ近隣の方との関わりをもつ機会 が少ない為、事業所理解に向けて、運営推進会議の参加や、気軽に遊 びに来ていただけるよう声かけを行って行きたい。また地域の方向けの 広報誌を作成し回覧板などで回していただくなども行って行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に 参加し、地元の人々と交流することに努め ている。	町内会に加入している。地域の夏祭りに参加し、一緒に盆踊りを踊るなど交流を図っ ている。町内の資源ゴミの回収に協力したり、防犯協力店として、児童の緊急時に避 難できるよう近くの小学生が見学にくるなど地域の方との交流に努めている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる。	運営推進会議や事業所内の勉強会に地域の方を招き、認知症の勉強会や高齢者の 疑似体験などを行っている。地域の方から入居の相談を受けることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価を実施する意義や目的を伝え、職員全員で取り組み自分たちのケアを振り返る機会にしている。外部評価の結果の中で改善すべき点は、職員全員で話し合い、改善に向けて取り組み、日々のケアに活かすようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の取り組みや外部評価の取り組み・結果を報告し、地域の方より、意見・質問・要望を聞き改善に努めている。また、事業所として地域に何か協力できる事はないかの話し合いを行ったり、職員の勉強会や地域包括支援センター職員による講話なども取り入れ、より多くの参加と事業所の理解に向けて取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市に定期的に情報提供したり、2ヶ月に1度、市全部の管理者を対象とした研修会が行われている。また市による実地指導があり事業所の実態把握と、サービスの課題を明らかにし、改善に向けての話し合いを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。利用者のケースで市担当者に相談をしてアドバイスを頂くこともあり、協働連携の関係に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部研修の参加や運営推進会議で地域包括支援センター職員による講話などで勉強する機会を作っている。必要な利用者には、その都度、説明をして支援につなげていけるよう対応していきたいが、職員全員の理解浸透には至っておらず、支援できる体制が万全とはいえない。	○	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業の理解にむけて、事業所内での勉強会や、積極的に外部研修に参加し、職員一人ひとりが、知識の必要性を理解し支援していきたい。対応が必要と思われる利用者がある場合は、職員に説明し、話し合いながら利用者の支援をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	自分たちのケアを振り返りながら職員間で意見交換や注意しあうなど行い、虐待防止に努め安心して生活が出来る環境に向けた取り組みをしている。	○	外部の高齢者虐待の研修には参加しているが、一部の職員であり、職員の周知には至っていないため、高齢者虐待防止法に関する理解浸透に向けて、事業所内での勉強会でテーマに取り上げたり、外部の研修に参加した職員による伝達講習会などを行っていく。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間をかけて、重要事項説明書や重度化した場合の対応、個人情報に関する同意書などを説明し、理解・同意を得るようにしている。契約時、事業所のできる事・できない事を明確に説明した上で、利用者の状態の変化により退去になる場合は、本人・家族と相談しながら話を進めている。また、契約内容が改訂になる場合は家族に、その理由を示し、説明会や場合によっては個人的に説明をする機械をもち同意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	個別にコミュニケーションをとる機会を設け、利用者の希望・思いを聞き取り、その都度、改善されるよう職員間で話し合いを行っている。相談・苦情の仕方を重要事項説明書に図式で説明している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月1回ケアプランと共に、家族への手紙を送付し細かな近況の報告を行っている。急を要する場合は、その都度、電話連絡や相談を行っている。金銭については、面会時に領収書とおこずかい帳を確認してもらい、サインを頂いている。来所が遠のいている家族や、遠方の家族には領収書とお小遣い帳のコピーを送ったり、ケアプランは返信用の封筒を同封し確認・サインをして送って頂けるようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談・苦情の利用の仕方を口頭と重要事項説明書に図式で説明している。毎月のお手紙や面会に来られた際などに意見や要望などを伺うようにしている。家族からの意見があった場合は施設長に報告し、苦情処理報告書を記載して、改善に向けて職員全員で話し合いを行い取り組んでいる。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスでの話し合いの他、日々の業務の中でそれぞれの職員に意見を求め、業務に活かしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診や外出の送迎など利用者や家族の要望に対応する為、出来る限り職員を確保する為の調整を行っている。利用者の体調や職員の急な休みに対応できるよう、管理者はシフトからはずれ臨機応変に対応できるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は極力行わず、馴染みの環境を大切にしている。また、異動や離職でやむを得ない場合も引継ぎの期間をとるようにし、その交代の時期にも配慮している。新しい職員が入った時に利用者や家族に伝えるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の職員の経験年数や段階に応じて、パート職員も含め、様々な研修への参加をつくっている。また月に1度勉強会を行い、職員のスキルアップの機会を設けている。常に自分たちの行ったケアに対し振り返りをして、どうすれば良いのかを考えるよう指導し、その事をお互いに話し合える機会をもつよう助言を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他のグループホームの事業所と勉強会や交換研修などを行い、親睦を深めながら事業所同士で協力し職員の育成や質の向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員と会話する機会をもち、悩みや、職員同士の人間関係を理解するよう努めている。また管理職を対象とした、他の事業所との合同勉強会や職員研修で交流や親睦を深める機会をつくり、同じ悩みやストレスをお互いに打ち明けられるような機会をつくっている。勤務中、気分転換ができるよう休憩・喫煙所などを設けている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の仕事に対する姿勢や努力を評価し、向上心をもって働けるよう努めている。積極的に研修や勉強の機会を与えてくれており、職場内で活かせる環境作りに努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時は、直接本人と会う機会をつくり、困っていること、不安なこと等、話を聴く機会をもち、顔なじみになる事で、安心していただけるよう心掛けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の立場にたって話を伺い、思いを受け入れ、どうしていけば良いか、最善の方法を一緒に考えていくよう対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族や、以前のケアマネージャーの方々と話をしながら、今までの生活の経緯やどのようなサービスがベストであるかを入居前に話し合うよう努めている。必要に応じて他の事業所のケアマネージャーや相談員と連絡をとり、他のサービス機関につなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に数度、本人や家族に会う機会をつくり顔見知りの関係が築けるよう配慮している。また見学をしていただいたり、入居前の準備などの際、出来るだけ詳しくお話をし、職員や他の利用者、フロアの雰囲気を見ていただくよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩とし、様々な行事事を聞いたり、食事作りなどにも参加して頂くなど、一緒に生活する事を楽しんで頂けるよう対応している。出来たことは一緒に喜んだり、困っている時は力となり、利用者の気持ちに寄り添うように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族にも参加して頂く行事を行ったり、面会時など、家族に不安・要望・気付いた事はないか聞き、一緒に本人を支えていける様、家族にも伝え協力していただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの関係があまり良くない方に対しては、職員が調整役となり本人と家族の関係の維持に努めたり、関係性を見極めながら、外出・外泊をすすめ、両者からの意見・意向が出来るだけかなう様、対応している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙や年賀、面会など、家族にも話を伺いながら対応している。また、希望がある場合は、迷惑ではないか情報を頂いた上で、電話をかけるよう援助して。馴染みのある場所や知人・友人宅への外出の希望があった場合は、家族と相談しながら希望にそえるよう対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者個々の性格などを把握した上で、様々な活動や会話を多く持つようにし、職員が仲介する形で一緒に行えるよう関係をつくっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院退所された方には、定期的に面会へ行ったり、家族とも電話やお逢いし、できる事は協力する事を伝え、本人・家族との関係がきれないよう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から利用者の思いをくみ取り、個別や小集団での外出など、希望にそえるよう対応している。また、家族に協力を求めたりしながら、出来る限り、本人が求めることに対応するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の面会時などに、以前の本人の様子をうかがい、色々な場面でや会話などに活かしたり、その方々が生活されていた地域に職員がプライベートを利用し行ってみたりしている。入居時は、事前に自宅・施設訪問をし本人・家族または、他の事業所の関係者から出来るだけ詳しい情報を得るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	大まかな時間の流れはあるものの、その人の生活リズムを把握し決まりをつくらず、個々のペースで対応している。利用者の心身の状態を把握しつつ、できる事、できなくなってきた事を見極め、できる事が継続できるよう援助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月ケアプランを見直し再作成する事で、よりその時の意向にそうものを作成するよう努めている。また毎月、家族に手紙を書き、家族の意向も取り入れている。アセスメント行い、定期的にカンファレンスをし課題となる事を職員全員で話し合いをし、それぞれの意見を取り入れたケアプランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月カンファレンスを行い、実践した事の評価から、職員全員で継続していく点、改善していくべき点を話し合いケアプランの見直しを行っている。期間途中で見直しが必要となった場合は、との都度、本人・家族の要望を取り入れ、医療機関にも相談しつつ新たなケアプランを作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録ファイルにケアプランを入れて、ケアプランの実践にそった記録をしている。日々の関わりで気づいた事や、その時の表情や話した事など状況を詳しく記録し、ケアプランの評価や見直しに活かしている。勤務前には必ず記録を確認するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の要望に応じ、臨機応変に対応している。家族の宿泊、外出の付き添いや外出場所までの送迎、通院介助など、本人の家族も安心して過ごせるよう職員の人数を増やしたり、勤務時間を調整して対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会長さんや老人クラブの方との意見交換の場面でボランティアの協力の呼びかけを行っている。警察、消防に災害・緊急時に対応していただけるよう避難訓練、緊急時の対応について指導・アドバイスを頂いている。定期的にボランティアによるハンドベルの演奏をしていただき利用者も喜ばれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	今のところ、本人や家族より要望がないため行っていない。		本人・家族の要望や必要に応じて、ケアマネージャーやサービス事業所と連携をとりながら他のサービスを活用していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的に行われる運営推進会議に出席して頂き、情報交換を行っている。成年後見制度や認知症についての講話をしていただくなど、家族・町内の方と共に本人をサポートできるよう地域包括支援センターとの関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所のかかりつけ医の他に、以前に利用していた、かかりつけ医がいるか情報を得て、本人・家族と相談しながら希望にそう医療が受けられるよう援助している。必要に応じて家族にも受診の付き添いをお願いする時もあるが、その都度、職員が受診の付き添い・介助を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の症状や対応方法などについて相談できる専門医がおり毎日の生活の中で、利用者の様子に変化や気になる事がみられた時は受診をし、関り方や内服の調整のアドバイスをもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に2回、看護師の訪問があり、その都度、利用者の様子や健康状態について相談し、アドバイスをもらい、日々の体調管理に役立てている。利用者の様子に変化がある時は、相談できる体制である。看護師と、利用者個々の健康管理について日誌をつくりやり取りしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は本人の関わり方、日々の生活の様子などに関する情報を医療機関に提供している。医師からの話と、お見舞いに行き様子をうかがい本人の心身状態を見極めながら、家族・職員・往診の医師と早期退院に向けて話し合いを行っている。環境の変化によるストレスを考え、お見舞いに行ったり、食事がすすまない時は食事介助に行き対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応にかかる指針に関する同意書を作成し、入居時、説明を行い同意を得ている。本人の状況に合わせ、その都度、本人・家族・協力医療機関・職員で話し合い方針を理解した上で取り組めるよう準備はできている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族の思いを大事にしながら、本人の状況を家族・協力医療機関と情報を共有するようにしている。ホームで出来る事・出来ない事を見極め、職員・家族・本人・協力医療機関と話し合いを重ね、安心して終末期を向かえられる対応を考え支援している。協力医療機関とも連携された協力体制がとられておりチームで支援していけるような準備はできている。本人の急変時の状況を想定し、搬送先の病院の確保や対応について話し合いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族を含め、職員が受け入れ先との情報交換を行っている。日々の生活の様子や支援の内容、注意が必要な事などを伝え、今までの生活と変わらず安心して生活ができるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの状態に合わせ声がけを行っている。コミュニケーションの方法も伝わりやすい方法を考え対応している。さりげない声がけや、関わりを心がけ、敬う気持ちを忘れないよう利用者との関わりについて振り返る機会をもっている。個人名を他者の記録に書かない事や、他の家族や外来者に利用者のプライバシーに関する事は話さないよう徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	選ぶ事が難しくなってきたりしている方もいるが、じっくり話を聴く、わかりやすく聞き慣れた表現を使うなど一人ひとりの状態に合わせたコミュニケーションの方法で対応し、本人の思いをくみ取れるよう支援している。日常的に自分で決めたり、選べたりする機会を作るようにし、職員が決める事はないよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな一日の流れは決まっているが、その日の、利用者の気持ち・体調・やりたい事をくみ取り、その人のペースに合わせ生活してもらえるようにしている。散髪・外出の希望があった時はできる限り対応し、フロアの状況や体調・天候等ですぐ行けない時は、いつなら行けるかを伝え納得をしてもらっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一緒に衣類を選んだり、日用品や洋服の買物に出かけたり、本人の行きつけの美容室へ行っている。爪・髪の毛は伸びてないか、衣類は汚れていないか等を常に気にかけて不十分な所は、さりげなく手伝うようにしている。行事や活動の中で、普段着ないようなオシャレをして出かけ、お化粧や、ネイルアート、美容パックなどを自分でしてもらったり、興味のある方は体験してもらえるような機会を作っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人の状態に合わせてながら調理・盛り付け・片付けを職員と共に行っている。その人ができる事を日課として行ってもらっている。同じテーブルで職員も食事をとり、利用者と会話しながら楽しく食事ができるよう心掛けている。献立は、希望を聞いたり、畑でとれた野菜を使って調理したり、季節にあった物を取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好品を把握し、希望があった時には個々の疾病に支障がない範囲で対応している。飲み物やおやつは、その時々になにか利用者に聞いたり、好きな物を促すようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックで個々の排泄パターンを把握し、その日の気温や水分の摂取量によりトイレに誘導する事でパット汚染の軽減を図っている。個々の状態によりパットを使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員は入浴の間隔があいている方を把握し、入浴の声かけを行い、本人の希望に合わせて入浴してもらっている。その都度、入浴の希望があった時は臨機応変に対応している。入浴を拒む方には時間をおいたり、タイミングをみて対応を工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	各フロアにソファを置き、居室やフロアなどで利用者が安心して休息できるようにしている。利用者の心身状態に合わせて休息する時間を設けている。日中の活動量を調整して、夜間、安眠できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴を把握し、得意な事や好きな事、お願いできそうな仕事を頼み、その人の力を発揮できそうな事を見つけながら支援している。また、楽しみながらリハビリができるよう日課に取り入れ、他者と共に行い、表にシールを貼るようにするなど、本人が意欲的に継続できるような工夫を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の認識が出来ず自分で管理ができない方が多いため、事務所で管理している方が多い。本人の状態に応じて支払いをしてもらう場面を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	年間で大まかな季節行事をの予定をくんだり、利用者の希望に合わせ、散歩や外食、初詣などに出掛けている。歩くことが困難な方でも車椅子や自動車を使用し、散歩やドライブなどで外出する機会をつくっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個々の行ってみたい所を聞く機会をつくと共に、その実現に向けて職員間で話し合いながら、家族の協力を得ながら取り組んでいる。少人数での外出や家族参加の外出行事を行っている。計画時は職員の勤務調整、緊急時の事を考え、事前に外出場所近くの病院や警察を調べるなど準備を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者が気軽に電話ができたり、また、家族・知人から電話がかかってくる事もある。お手紙や年賀状のやり取りがあり、返信を書くよう利用者に声をかけ、あて先の記載や投函は介助しながら、関係が継続されるよう配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪ねて来られるよう面会時間は設定はしていない。職員は常に笑顔を心がけ気持ちよく、本人と家族・馴染みのある方が過ごせるよう配慮し、状況を見ながら、利用者と家族の間をとりもつようにしている。家族の希望がある時は宿泊もしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一人ひとりの人権の尊重を理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。利用者の日々の状態を把握し、自分たちの関わりが拘束になっていないか職員間で振り返る機会を設け、予防に努めている。	○	職員同士、利用者に対する関わりや声かけを互いに確認しあい、身体拘束に対する意識をもちながら日々のケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は鍵をかけず自由に入出入りできるようになっている。利用者の状態を把握し、本人の思いを尊重して、職員間で声をかけあいながら、鍵をかけなくても利用者が安全に外出できるよう、見守り・付き添いを行っている。入所時にSOSネットワークの利用について承諾を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個々の行動パターンを把握し、その時々の様子をみて職員の近くや利用者の様子を感じ取れる場所で過ごしてもらい、記録は全体がある程度見える食堂で行うようにしている。夜間は定時で巡回をおこなっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状況に合わせ、危険と思われる物は、目に触れないように配慮したり、使用するときは職員が付き添い、使用後は速やかに事務所や目のつかない所に片付けるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書を作成し、再発防止・今後に活かす意義づけを、その都度、職員間で話し合い再発防止に取り組んでいる。。生活の中で起きうる事故や、個々の利用者に起きうる状態を想定し、事故が起きないよう日々の業務中やカンファレンスで話し合いをもち予防に取り組んでいる。事故が起きた場合は、家族に報告している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、救急救命の講習会を行い職員全員が対応できるようにしている。また勉強会のテーマで取り上げて、基礎知識を学ぶ機会を設けている。夜勤時の緊急対応についてマニュアルや連絡網を作成し、実際の場面で活かしている。往診で来てくれている看護師にお願いし応急救置の勉強会を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を年に2回、日中と夜間を想定して実施している。近隣の同法人の事業所と協力して行ったが、運営推進会議で地域の方に協力を呼びかけたが参加がなかった。もしもの時に備え、定期的に消火器や災害時の設備点検を行っている。	○	事業所の理解と共に地域の方の参加、協力を得る為、積極的な交流と呼びかけを行っている区。回覧板などで案内を回してもらうなども行っていく。災害時に備え、食料・水・オムツなどの非常用具の準備をしていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の状況を手紙や、面会時に伝え、本人の危険を伴う時は家族に相談しながら、どう対応していくかを職員を含め話し合う機会をつくっている。利用者の出来る事を活かすためにはリスクも伴う事を家族に説明し、理解をいただき、その人にとって苦痛にならず快適にすごしてもらえよう努力している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタル測定の変動や、日中・夜間の本人の様子で気になる事、普段とは違う様子がある時は、管理職へ報告し、職員で情報を共有する事を徹底し、その都度、往診の医師に相談したり、場合によっては救急搬送や受診などの対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は利用者一人ひとりの疾患と共に内服薬の内容の把握に努めている。内服薬の変更がある場合は申し送りや特記事項として記載し、内服の理解と経過に注目し、変化を記録に残すようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々に合わせた水分量を促している。毎日、運動をかね階段の昇降などの活動も行っている。食事では繊維質の物や乳製品などの食品を取り入れ、また、腹部マッサージも行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	その人の生活習慣や力に応じ、義歯の手入れや、歯みがき、うがいを行い、口腔内の清潔を心がけている。協力医療機関の歯医者による勉強会を行い、ブラッシングの仕方や口腔ケアについて知識をみにつけ、個々の利用者の支援に繋げている。また、年に1回口腔内の検診を受け、口腔内の清潔を保つ為のアドバイスを頂いている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分の摂取量をチェックし一定の水分が確保できるよう、本人の好みや、タイミングをみて促している。利用者の疾病によって食事量や、献立のバランス、食事以外のカロリーに気かけに、利用者の状態に合わせ、食べやすい形状にするよう配慮している。栄養バランスをテーマにした勉強会を行ったり、定期的に管理栄養士に献立をみてもらい、アドバイスをいただき、献立作成時にいかしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・利用者インフルエンザの予防接種をしている。参考資料を配布し、感染症の予防に対する理解を深め、手洗い・うがいを徹底し、塩素系漂白剤での消毒を行っている。湿度・室温の調整を行い、風邪の引き初めにはマスクをするなど予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・調理器具・ミキサーなどは毎晩、つけおき除菌をしている。布巾は使用後すぐ、漂白液につけておくことを取り決め清潔を心がけ取り組んでいる。買物前には冷蔵庫の食事の残りを確認し、買いだめしないよう新鮮なものを購入している。できるだけ国産のものを使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関内にはテーブルや椅子を置き、ゆっくりと出来るスペースを確保し、暖かい時期には花壇やプランターに花を植えて明るい雰囲気をつくり出している。フロアの玄関先は、季節を感じてもらえるような装飾品を飾り、その日の勤務者がわかるよう職員の写真を掲示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具類や、トイレ浴室などの設備は一般家庭で使用しているものを使っている。また、室内には利用者が馴染みのある物を置き、利用者と共に、季節感のある装飾品の飾り付けを行っている。テーブル・椅子などの配置を考え直す事で、より利用者の生活に過ごしやすい、使いやすい空間になるよう工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	中玄関や2階テラスにベンチを設置したり、フロア各所にも長ソファや1人がけソファを設置し少し離れた所で、周囲の様子を感じながら1人の時間を過ごせるような空間がある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人・家族に相談し、利用者に馴染み深い物や、昔から使用していた物を持ってきていただいている。また、利用者の好みに合わせ、じゅうたん・カーテンを用意してもらい、本人が心地よく過ごせる空間づくりをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気・空調に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適度な換気を行うと共に、室内に湿度・室温計を設置し、快適に過ごしてもらえるよう配慮している。トイレは、換気扇と消臭剤で気になる臭いがこもらないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	広いフロアや季節に関係なく活用できる中玄関・テラスを利用しての散歩や活動・行事を行っている。身体状況に合わせて活用できるトイレの設置や、居室の戸の色を変えるなどの工夫をしている。台所・手すり・浴室・電気のスイッチ等は利用者が生活する中で使いやすい高さになっており、安全で、安心して暮らせる環境になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	職員間で話し合いの場をもち混乱や失敗の要因を探り、本人の状態に合わせ様々な工夫をしながら、その人の持っている力が活かせるよう環境整備に努めている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関外には畑を作り、花を植えて楽しめるようにしている。中玄関・テラスにベンチを置き、季節関係なく景色を楽しむ事が出来たり、活動や食事をするなど、くつろぎのスペースとして、また気分転換の場として、活用している。建物の玄関前には広いスペースがあり涼んだり、日向ぼっこをしている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】 （日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 平成14年に開設してから、ほとんど利用者の入れ替わりがなく、ほほえみを家として過ごして頂いている。出来る事が少しでも維持できるよう、利用者の状態を見極めてケアに取り組んでいる。特にトイレでの排泄に力を入れている。本人の排泄パターンを把握し、タイミングをみながら、トイレへの声がけ・誘導を行いトイレでの排泄の継続と、パット使用の軽減に取り組んでいる。また、利用者の希望や状態に合わせ、建物や環境を活かした生活リハビリにも力をいれている。 利用者に楽しんで頂けるよう年間通しての季節行事を企画し、室内も季節を感じて頂けるよう装飾に配慮している。
